

研究コーナー

book review

Atlas of Ovarian Tumors

Liane Deligdisch, et al.

IGAKU-SHOIN LTD. ¥14,900

The Mount Sinai Medical Center の3人のドクターの共著で大きく二つの Section に分けられている。この種の本としてはめずらしいが Section 1 では、卵巣腫瘍に関する Epidemiology, Diagnosis などの一般的事項が要領よくまとめられている。とくに Transvaginal ultrasound color-flow image については詳しく記述されており、写真もわかりやすい。参考文献も1992~3年の新しいものも多く、また豊富である。ただし Management の記述内容は、ややものたりない感がある。これにつづく Section 2 がいわゆる Atlas となっており、良性から悪性まで primary epithelial tumors, primary nonepithelial tumors, metastatic tumors について大きく七つの Chapter にわけて記述されている。各腫瘍の特徴が簡潔に記載され、それぞれの組織写真(モノクロ)と説明とともに、一部マクロの写真(カラー)が併載されている。独創的な点として、Preinvasive epithelial ovarian malignancy について、morphometry という概念をとり入れ、basement membrane から細胞核までの距離を計測し、その結果により normal, dysplasia (ovarian intraepithelial neoplasia) そして malignant ovarian epithelium を分類している。組織写真がカラーであれば、よりすばらしい本となつたであろうと推測されるが、モノクロ写真でも組織の特徴は十分に理解できる。総ページ182という薄めの本であり、あまり特殊な腫瘍は含まれておらず婦人科病理を専門とする方には物たりないと思われるが、文章も簡潔で非常に読みやすく、また Index から調べたい腫瘍がすぐにひけるため、日常の臨床で手元に常備しておくとな便利に一冊と思われる。

東京慈恵会医科大学講師 木村英三

TRANSVAGINAL ULTRASOUND 2nd ed.

Melvin G. Dodson ed.

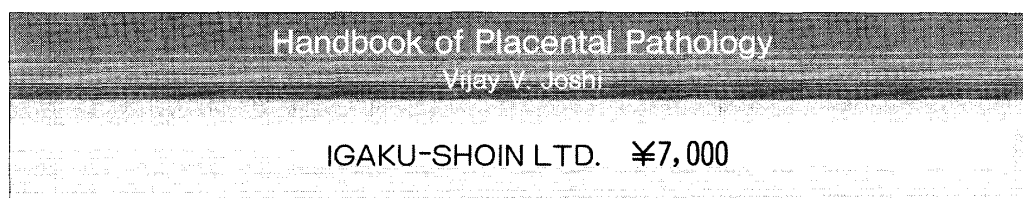
Churchill Livingstone INC. ¥17,280

(医学書院・洋書部調べ)

近年の医療技術の進歩には目を見はるものがある。画像診断技術の分野においてはとくにその進歩に加速度がついているといっても過言ではない。なかでも超音波断層法は日常の臨床において最も広く普及したものの一つである。産科学・婦人科学においても診断精度の向上に極めて有用な手段となっていることは周知の事実であるが、経腔超音波断層法が加わったことによりその有用度はさらに拡大した。本書は1991年の初版に続く第二版であるが、この間に超音波断層法関連の書物の出版数は著しく増加した。そのために本書では産婦人科医または産婦人科レジデントを対象を絞り、産婦人科関連の領域を基礎からさらには Up to Date な診断・治療技術にまで日常臨床における最良の指針を与えるべく工

夫されており実に有用である。経腔超音波法の教科書である本書は9人の執筆者の分担によって豊富な写真と図表が総ページ数340, 5章に分けて纏められている。具体的には、超音波断層法の原理と装置および骨盤の解剖との関係をわかりやすく解説し、局所的には子宮・子宮内膜・卵巣・腸管の正常編と骨盤内炎症・不妊・無月経および過多月経などの異常編に分けて詳説し、妊娠および妊娠合併症編では妊娠初期・先天奇形・子宮外妊娠について経腔超音波法の有用性を随所に盛り込んで解説している。さらに関連領域として泌尿器の異常にも触れ、不妊治療における卵胞の観察から卵胞吸引に最新の情報を紹介し、カラープラの項では将来への日常的臨床応用を約束する様々な知見も掲載されている。経腔超音波断層法に関する教科書を一冊だけ紹介するとすれば本書はまず第一の候補であろう。

九州大学医学部婦人科産科講師 野崎雅裕



胎盤はわれわれ産婦人科医にとって大変馴染深いばかりでなく、研究対象としても魅力的な臓器である。胎盤はまた、他の臓器と同じく疾患に関して多くの情報を与えてくれるが、それらを系統的に解説した書は少ない。本書は胎盤の病理に多大な経験を積んだ著者が、病理学者を対象として解説した書であるが、産婦人科の臨床医が胎盤の見方を勉強したいときの入門書としても適している。胎盤に対する知識が乏しい者でも十分に理解できるように、胎盤の発育や構造についての解説にはじまり、胎盤の肉眼的な観察法や病理学的な所見にいたるまで順次事細かに解説している。また、臍帯や羊膜についても解説されている。われわれ産婦人科医にとっては、肉眼的な観察法を学ぶだけでも十分に臨床に役立つと思われる。本書は肉眼的、病理学的に胎盤の正常と異常所見を解説するだけでなく、妊娠中毒症、糖尿病合併妊娠、早産といった母体の合併症や、多胎、胎児水腫、胎内発育遅延児における胎盤の所見も解説しており、臨床に役立つ実践的なハンドブックをめざした著者の意向がよく表われている。本書は総頁82と比較的薄いにもかかわらず、84もの写真やイラストが挿入されており、絵本的な感覚で短時間で読むことができる。また、本書には11の表が挿入されているが、いずれも胎盤に関する事項を要領よくまとめてあり、表を一読するだけでも胎盤に対する知識を修得することができるように工夫されている。

東京女子医科大学母子総合医療センター助教授 岩下光利

研修コーナーに会員皆様の声をお寄せ下さい。

宛 先：〒162 東京都新宿区市ヶ谷砂土原町1-1
保健会館別館内
日本産科婦人科学会
研修コーナー編集 係